

平成26年度 文化アセスメント 実施結果報告書

2015(平成27)年10月
川崎市文化芸術振興会議

平成27年10月15日

川 崎 市 長
福 田 紀 彦 様

川崎市文化芸術振興会議
会 長 澤 井 安 勇

平成26年度文化アセスメント実施結果の報告について

川崎市文化芸術振興会議より、川崎市文化芸術振興条例第8条に規定された文化アセスメントについて、平成26年度の実施結果を報告します。

文化アセスメントは、市民生活の充実やまちづくりの進展に向けて取り組まれている「第2期川崎市文化芸術振興計画」上の重要な事業を選び、それらの事業の取り組み内容について実地に確認を行いながら、事業の目的、文化芸術性、市民とのかかわりおよび効率・効果等の視点から、当該事業が有効かつ適切に実施されているか総合的に検証し、さらに目的達成のため改善すべき方向性などについて文化政策的提言を行うものです。

近年は、文化芸術事業の実施における行政に求められる役割も、従来の行政主導型の事業展開から、地域の市民、企業、団体などと協働しながら、地域の特色を生かした文化芸術振興を図っていく形へと変わってきています。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定に伴い、日本の芸術文化への内外の注目度も高まってきていることから、地域からの特色ある文化芸術の発信に期待が寄せられています。川崎市には多様な文化団体や大学など豊富な文化資源を形成する主体が多数存在しており、こうした諸主体と連携しながら地域の特色ある文化芸術活動を育成していくことが、魅力的な地域づくりに繋がるものと思われま

す。今回の文化アセスメントの対象については、そうした地域レベルでの文化芸術活動と行政の連携に焦点をあて、地域の文化芸術活動を支援し、市民と協働しながら育てていく事業の代表的な取組事例として、中原区で開催されている音楽やダンスの祭典「In Unity開催事業」を、また、地域ボランティアや地域団体と連携しながら運営されている事例として、「東海道かわさき宿交流館事業」を選定しました。その評価作業については、川崎市文化芸術振興会議の委員が手分けして個々の公演や講座、また、施設の活用状況等を視察し、事業関係者、担当行政部局等からのヒアリングおよび意見交換なども実施しながら調査を進め、全体討議を経て、最終的に委員全員の合意により評価書を作成したものです。限られた時間と人的体制の中で実施されたものであり、個別には意を尽くせなかった部分も残りましたが、全体としては現時点で作成しうる最善の結果報告であると考えますので、この報告が川崎市における今後の関連施策に適切に反映されることを期待いたします。

平成26年度文化アセスメント実施結果報告

1 対象事業及びその選定理由

(1)対象事業

A In Unity開催事業

B 東海道かわさき宿交流館運営管理事業

(2)対象事業の選定理由

In Unity開催事業については、第2期文化芸術振興計画の基本目標3施策3「文化芸術活動への市民参加の促進」に該当する事業であり、市民との協働により実施し、世代間・地域間の交流促進が期待される事業の一つであるため。

東海道かわさき宿交流館運営管理事業については、文化芸術振興計画の基本目標3施策1「文化施設等の効果的な運営」に該当する事業であり、地域文化の向上や市民相互の交流拠点としての役割が期待されている施設であるため。

2 評価結果

A In Unity開催事業

(1)事業の目的・概要

担当課	中原区役所地域振興課
振興計画上の位置づけ	基本目標3 市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備 施策3 文化芸術活動への市民参加の促進
事業概要	市民有志による実行委員会が、開催する地域密着型の音楽・ダンスの祭典。実行委員会は年間を通して活動し、ライブ開催の企画、準備、当日の運営までを行う。 また、年間をとおして区内の商店街や駅前広場等において告知ライブやオープンカフェ等を開催することで、発表の機会の提供や地域・世代間の交流に繋げている。
目的	区内のアマチュアバンドやダンスユニットに、日頃の成果を大舞台で発表する場を提供するとともに、音楽を通じて区内の幅広い地域・世代間の交流を図ることを目的として、区民の手作りによる音楽ライブを開催し、区における「音楽のまち・かわさき」を推進する。

取組

番号	名称	概要・目的
A In Unity 開催事業	In Unity開催事業	<p>概要</p> <p>(1) In Unity2015 開催日：平成27年3月8日 会場：川崎市総合福祉センター(エポック中原) 出演者：ミュージシャン9組、ダンスユニット8組、 ゴッパチ！！コーラス隊(公募のゴスペル隊) 入場者：約1,300名</p> <p>(2) 事前告知ライブ ア なかはらっぱ祭りでのライブ開催 (7月21日中原市民館大ホール) 中原市民活動の集い「なかはらっぱ祭り」と連携して インユニライブを開催するほか、パネル展や活動の スライドショー等によりPRを実施 イ In Uniy Special Mini LIVE 開催 (9月6日、10月4日、12月6日、こすぎコアパーク) 新たなPRライブの場として武蔵小杉駅前のこすぎコア パークにて告知ライブを実施 ウ インユニカフェ開催 (2月14日川崎信用金庫新城支店駐車場) 川崎信用金庫の駐車場スペースを借りて音楽イベント とオープンカフェを実施</p> <p>(3)ゴッパチ！！コーラス隊 市民からゴスペル隊の出演者を公募し、InUnity2015に 出演</p>

(2) 評価

取組への評価
<p>A In Unity開催事業</p>
<p>(1) 事業の目的(設定の妥当性、達成度、達成手段の妥当性) 川崎市の中でも、特に人口の増加が顕著である中原区のまちづくりにおいては、新旧住民の交流を深める場づくりが求められている。そうした中で、「音楽」や「ダンス」を軸に様々な世代・立場の住民が参加し、交流する機会を提供することを企図とした本事業の目的は、現在のまちづくりにおける課題に合致したものといえる。 また、イベントは様々な世代が観客として来場しており、それぞれが色々な世代・ジャンルのパフォーマンスを見ることで事業の目的の一つである世代間の交流に繋がっている。</p>
<p>(2) 文化芸術性(独創性、育成支援) 本番の舞台では、音響や照明が効果的に使われているほか、舞台転換の際のメッセージ読み上げや、モニターを使った出演者紹介など、観客を飽きさせないための工夫が随所に散りばめられている。こうした演出は出演者のモチベーション向上、ひいては地域における文化活動の活性化にも繋がっていくものであり、評価できる。</p>
<p>(3) 市民とのかかわり(参加、満足度、周知度) 事業の実施にあたっては、ボランティア、演奏者、観客、実行委員が一体となり、楽しみながら一つのステージを作りあげており、参加者の満足度の高さが伝わってくる事業である。また、出演者も毎回定員を上回る応募があり、区内の音楽やダンスの愛好家の間で定着しているイベントであることが伺える。 この事業がより効果を発揮するためには、更なる住民参加の拡がりが必要であり、こすぎコアパークなどを活用した告知ライブの実施などは住民へのイベントの浸透に有効な手段といえる。しかしながら、アンケート結果からは告知ライブの実施が必ずしも本番の集客に直結しているとはいえず、開催手法や会場での告知方法などには工夫の余地が残る。</p>
<p>(4) 効率・効果(波及効果、施設の利用管理、連携協働、費用の効率化) 本事業は市民が実行委員会を結成して運営主体となり、行政がサポートを行う官民協働事業である。実行委員会は企画から運営まで幅広い役割を担っており、市民が自ら作りあげていく事業となっている。こうした市民主体の活動を契機に、実演者やサポートする市民の交流が深化し、新たな活動に繋がっていくなど、事業がもたらす波及効果も認められる。一方で、年間を通じた事業を展開していく中で実行委員個々人にかかる負担も大きく、今後、事業を更に地域に浸透させ波及効果を生み出していくためには地域全体で事業を支えていく体制づくりが必要である。</p>

総合評価	<input type="checkbox"/> A : 継続 <input checked="" type="checkbox"/> B : 改善 <input type="checkbox"/> C : 見直し
<p>評価の理由等</p> <p>川崎市文化芸術振興計画の基本方針の一つに「市民の主体的な文化芸術活動の尊重と支援」が掲げられており、市は市民の文化芸術活動に対して支援を行うこととされている。本事業は、市内で文化活動をしている市民の発表の舞台を、実行委員会と市が協力して開催する事業であり、事業の企画から実行まで市民主体の運営がなされている。また、企画にあたっては、参加者の自由な発想や視点が活かされた舞台が作りあげられており、官民協働事業の一つの形として評価したい。一方で、運営体制等については継続した課題が残っており、持続的な体制の確立にむけ、常に検証を行っていくことを求めたい。</p> <p>また、当該事業は、子どもから高齢者まで様々な世代が楽しみながら参加・鑑賞しており、特に、多くの事業で課題となっている、若年層の参加と活躍が非常に目立つ事業である。多世代が同じものに参加し、楽しむ場の提供は、世代間交流を促進するうえでの重要な要素であり、効果的な事業であるといえる。</p> <p>今後は事業を支える市民や地域の団体等を拡充していくためにも、現在行っている「告知ライブ」を効果的に活用していくことなどにより、区内全体への事業の浸透を図っていくことが必要である。</p>	
<p>提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の交流の深化や支援者の拡充を図るためにも、告知ライブなどを効果的に活用して事業の認知度を高めていく必要がある。こすぎコアパークでのイベント開催については、公園施設ということで規制も多いと思われるが、イベントに付加価値をつけるための物販や飲食物の提供などの実施に向けた行政内部での調整や、他のイベントとの共同開催等、より一層集客を図り、告知効果を高めていく取組が必要である。 ・現在の事業の収入は市からの委託料が多くを占めており、新たな事業展開を図ろうとしても予算上の制約が大きいことが想定される。近年は協賛や広告料などの手法のほか、ICTを活用した寄附など、資金調達の手法も多様化しており、事業を長く継続していくためにも、行政以外の多様な地域主体からの支援方法を検討していく必要がある。 ・年間を通したイベントの開催などにより、実行委員の負担も非常に大きいものと想像される。出演ミュージシャンの企画・運営への参加促進や、地域の活動団体との連携などにより、多くの人々が自分たちのイベントとして支えていく仕組みづくりが望まれる。 ・各区で様々な音楽イベントが開催されており、イベント相互間での広報連携や演奏家等の情報の共有など、横の繋がりを効果的に機能させていくことが望まれる。 	

B 東海道かわさき宿交流館運営管理事業

(1)事業の目的・概要

担当課	川崎区役所 地域振興課
振興計画上の位置づけ	基本目標3 市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備 施策1 文化施設等の効果的な運営
事業概要	東海道や川崎宿等に関する歴史・文化について、展示や企画事業等により発信するほか、貸館事業により市民の文化活動を促進する。
目的	東海道川崎宿に関する歴史、民俗等の資料の展示を行うとともに、市民相互の交流を推進し、もって市民の文化の振興に寄与する。

取 組

番号	名 称	概 要 ・ 目的
B 東海道 かわさき 宿交流 館運営 管理事 業	常設展示事業	<p>概要 1・2・3階常設展示コーナーにおける東海道や川崎宿の歴史・文化、川崎市域の移り変わり等について学習できる常設展示の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・六さんの川崎宿今昔物語 ・川崎宿・床面絵地図 ・映像による川崎宿の街並み再現 ・川崎宿・東海道五十三次のパネル解説 ・映像や模型等を活用した川崎宿に関する様々な「物語」の紹介 ・川崎を様々な角度から分解して紹介する「川崎分解劇場」 ・古地図・航空写真によって、市域の移り変わりを体験できる「川崎発掘・いまむかし」 ・川崎ゆかりの人物や川崎の変化についてのパネル解説等々 <p>目的 江戸時代の東海道の様子やこれとつながる川崎の地域資源に楽しみながら触れ、学んでもらうことにより、地域への愛着の増進や市域に足を伸ばすきっかけ等を提供する。</p>
	企画展示事業	<p>概要 3階企画展示コーナーにおける江戸の文化や川崎の変遷等をテーマにした企画展の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真展「宿場から明治の川崎へ」3月20日～4月20日 ・写真展「街を写す、人を撮る」4月22日～5月6日 ・手工芸展「昭和・懐かしい店先」5月13日～7月31日 ・写真展『川崎・昭和時代』8月26日～9月28日 ・開館1周年記念特別企画 歌川広重『縦絵東海道』10月4日～10月26日 ・企画展「かわさきでアート2014」11月1日～11月30日 ・写真展「川崎・昭和時代—あの頃の街、暮らし—」12月9日～1月31日 ・浮世絵展「芳年の月百姿」(前期)2月8日～2月28日 ・浮世絵展「芳年の月百姿」(後期)3月8日～3月28日 <p>目的 地域の文化団体や文化活動グループ等と連携しながら、地域の歴史・文化を中心とする多様な文化を発信する企画展示を開催し、市民等の文化振興と地域交流を図る。</p>

文化イベント事業	概要	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の粋に遊ぶ(6回開催) 「浪曲」、「民謡」、「江戸の売り声」、「義太夫」、「新内」、「箏曲」等を題材に市民が身近に江戸文化を体験できる公演の開催 ・街道シリーズ講演会(4回開催) 街道をテーマにした連続講演の開催 ・クラフト教室(2回開催) 「シャドウボックス(立体絵画)」 「切り絵入門」 ・かわさき歴史ガイド養成講座(6回開催) 東海道かわさき宿交流館や、地域の歴史ガイドを努めるための養成講座の開催 								
	目的	交流館を活用した各種文化イベントを、地域の文化団体や文化活動グループ等の協力を得て実施することにより、地域文化の振興と地域交流の推進を図る。								
川崎宿の賑わいに資する事業(川崎区等と連携した事業)	概要	<p>川崎区等が実施する地域振興事業との連携・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歩こう東海道川崎宿スタンプラリー」 ・「タペストリーを探せ」 								
	目的	地域の文化・交流拠点として、地域振興事業等に協力することにより、地域の活性化等に繋げる。								
集会室等の利用事業	概要	<p>館4階の集会室・談話室の貸館事業</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>室概要</th> <th>利用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・集会室1 48㎡</td> <td>53. 2%</td> </tr> <tr> <td>・集会室2 69㎡</td> <td>43. 9%</td> </tr> <tr> <td>・談話室 15㎡</td> <td>35. 8%</td> </tr> </tbody> </table>	室概要	利用率	・集会室1 48㎡	53. 2%	・集会室2 69㎡	43. 9%	・談話室 15㎡	35. 8%
室概要	利用率									
・集会室1 48㎡	53. 2%									
・集会室2 69㎡	43. 9%									
・談話室 15㎡	35. 8%									
	目的	市民に活動の場を提供することにより、市民の文化芸術活動や市民相互の交流を促進する。								

(2) 評価

取組への評価
B 東海道かわさき宿交流館運営管理事業
<p>(1) 事業の目的(設定の妥当性、達成度、達成手段の妥当性)</p> <p>かつてのまちの姿が失われていくなか、地域が発展する基礎となった東海道や川崎宿に関する歴史、民俗等を伝えていくことは、市民が自分の住む町に愛着や誇りをもつきっかけともなり、「東海道川崎宿に関する歴史、民俗等の資料の展示を行うとともに、市民相互の交流を推進し、もって市民の文化の振興に寄与する。」という館の設置目的は妥当である。また、館で行われている企画展示や講演、その他の事業についても、東海道や川崎宿の歴史や、江戸の文化を幅広く来館者に伝える内容であり、館の目的に合致している。</p> <p>一方で、市外からの来館者や訪日外国人の増加などに伴い、文化交流拠点としての注目度が高まっており、今後、こうした様々な来館者に向けた対応が必要となろう。</p>
<p>(2) 文化芸術性(独創性、育成支援)</p> <p>展示事業については、貴重な浮世絵の企画展示や川崎のまちの変遷を伝える写真展の開催など、質の高い事業が展開されている。こうした取組が地域への愛情の増進や魅力の再発見に繋がるものであり、評価したい。一方、これらの貴重な資料を背景や作品の解説等も含めて体系的に見せていくことが、鑑賞者の理解度の深化に繋がってくるものであり、展示方法等については更なる工夫が求められる。</p> <p>館の運営にあたっては運営開始時から市民ボランティアによる展示ガイドがなされているが、平成26年度からは館主催で「川崎歴史ガイド養成講座」が開催されるなど担い手の育成に対する取組も進められている。今後は、こうしたボランティアの活躍が広がるような取組を期待したい。</p>
<p>(3) 市民とのかかわり(参加、満足度、周知度)</p> <p>館においては、年間を通して来館者が江戸の文化や東海道の歴史を学ぶことができる企画事業が展開されている。特に、江戸時代の文化を紹介する「江戸時代の粋に遊ぶ」は、単なる公演会ではなく、演者による解説や鑑賞者も参加できる双方向のプログラム構成となっている。ややもすると取り付きにくい印象を与える古典文化を身近に親しみやすい形で紹介しており、参加者の様子からも満足度の高い事業であることが伺える。</p> <p>広報面に目を向けると、館のホームページやチラシ等を活用して事業の告知を行なっているが、事業の参加者を見ると、限られた世代・対象にしか届いていない印象がある。また、北部地域においては、施設自体の認知度も低く、広報の手法等については工夫の余地が残る。</p>
<p>(4) 効率・効果(波及効果、施設の利用管理、連携協働、費用の効率化)</p> <p>施設については、コンパクトなスペースながら、楽しみながら川崎宿の歴史や文化を学べる施設となっている。ホール等の貸館事業については、貸館利用者の事業への支援などにより徐々に利用者が増加してきているが、平日の利用率の低さなどに課題が残り、取組を促したい。</p> <p>地域主体との連携共同については、近隣の砂子の里資料館や地域の写真家等と連携した企画展の開催や、かわさき大師と連携した「かわさきでアート」等の開催、地域住民の代表からなる運営協議会の設置など、地域と連携した運営がなされている。今後ともこうした取組を継続していくことにより、地域への波及効果の拡大を期待したい。</p>

総合評価	<input type="checkbox"/> A : 継続 <input checked="" type="checkbox"/> B : 改善 <input type="checkbox"/> C : 見直し
<p>評価の理由等</p> <p>東海道かわさき宿交流館は、東海道の宿場町として発展した川崎宿の歴史・文化を後世に残していきたいという地域の機運を背景に平成25年10月に開館した文化振興・地域交流の拠点である。開館以来、想定を上回る来館者が続いているほか、地域との連携やボランティアの活用も進んでいるなど、好調なスタートを切っている。一方で、館のオープンが地域に与えた波及効果については、まだ目立った効果がなく、ますます増えていくであろう来館者を、どう地域の活性化等に繋げていくかが今後の課題と考える。</p> <p>施設については、コンパクトながら親しみやすい展示内容となっているほか、ガイドボランティアが常駐するなど来館者が川崎宿の歴史を楽しみながら学べる内容となっている。また、常設展示以外にも写真や浮世絵などの企画展示や、街道についての講座の開催、江戸時代の文化を体験する連続企画「江戸時代の粋に遊ぶ」など、館のテーマに沿った様々な企画により、教育普及に努めていることを評価したい。こうした地域や街道の歴史、古くからの文化を将来に継承していくためには、若年層に参加してもらうことが重要であるが、参加者の大半が中高年層であり、ターゲットに合わせた広報など、若い世代に訴えかけていく工夫が必要である。</p>	
<p>提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街道歩きや地域の再発見がブームとなっていく中、東海道や地域の成り立ちを伝える交流館への注目はますます高まっていくと思われる。こうした契機を捉え、拠点ごとの取組ではなく、スタンプ帳や手形、街道踏破証明書など他の宿場町と連携した街道を線で繋いでいくような展開や、マスメディアなどの媒体を活用した地域歩きの発信などにより、地域の活性化に繋げていくような取組が必要である。 ・現在の館の事業の企画は、少数の職員が担っているが、館の教育普及事業などを様々な世代に向けて多面的に展開していくためにも、地域の学校と連携した企画の実施や、ボランティアの企画への参加など、様々な世代・立場の人々が企画運営に携わっていけるような事業展開が望ましい。 ・企画展示については、近隣の砂子の里資料館と連携した浮世絵展の開催など館の趣旨に沿った興味深い企画がなされている。こうした展示物への理解を深化させ、来館者の満足度をさらに高めるためにも、展示作品についての簡単な冊子や解説目録の設置など、鑑賞者にわかりやすい展示方法の工夫が必要である。 ・連続企画「江戸時代の粋と遊ぶ」は、江戸時代の文化に触れ、体験できる貴重な企画であり、こうした事業が、伝統文化の継承にも繋がっていくものである。今後、より広がりを持たせていくためにも、地元の実演者とコラボレーションした企画の実施や価格設定面での工夫などによる集客増に向けた取組が求められる。 ・オリンピック・パラリンピック東京開催に向けて内外からの観光客が増加していく中、文化交流拠点としての館に期待される役割はますます大きくなっていくものと思われ、こうした交流を促進するためにも、旅行会社との提携や館の展示の多言語表記など、観光客の受け入れに向けた対応が必要である。 ・4階貸し館部分については利用率が低調であり、開館して日が浅いことや構造上の問題等もあるが、貸し館事業についての認知度の低さも原因の一つと思われる。近隣の文化団体や生涯学習団体への周知や、館のイベント参加者や併設の駐輪場利用者への広報などにより、認知度を高め、利用率向上に繋げていく必要がある。 	

平成26年度文化アセスメント実施結果報告書
2015(平成27)年10月
川崎市文化芸術振興会議

(事務局) 川崎市市民・こども局市民文化室
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地
電話 044-200-2029
FAX 044-200-3248